



パリ五輪が閉幕しました。日本選手団はレスリングの 8 個をはじめ 20 個の金メダルを獲得し、メダルの総数は 45 個でした。陸上競技は女子やり投で北口榛花選手の手の金メダルを始め 11 種目で入賞しました。

本県からは飯塚翔太、太田智樹、池田

パリ五輪から東京世界陸上へ

理事長 川口雅司



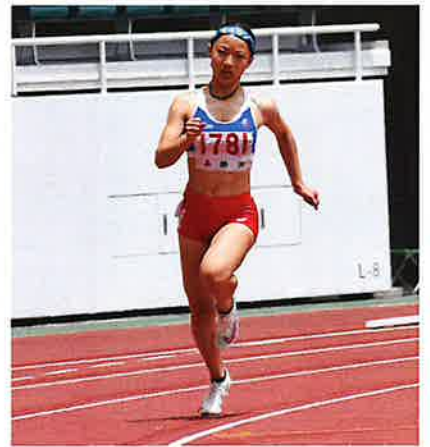
静岡 陸協 会報

第 36 号 (2024 年 9 月 25 日 発行)
一般財団法人
静岡陸上競技協会

〒420-0032
静岡市葵区阿替町 2-3-6 (2F)
TEL・FAX 054-253-9801

向希、川野将虎、斉藤真理菜の五選手が出場し県民に勇気と感動を与えてくれました。目標が高くなればなるほど、そこに到達するためには練習段階での設定も高くなり身体への負担が増大します。そんな状況下においてベストコンディションで大会を迎えることの難しさはその場に立った本人しかわからない部分です。五人には心から「お疲れ様」とお伝えたいです。と同時に来年の東京世界陸上に向けて努力している本県選手の牽引者として、再度世界の舞台で活躍されることを期待しています。

パリ五輪直前、国内では福岡インターハイが開催されました。昨年の北海道インターハイ前から一年以上もケガで苦しんでいた富士市立の小針陽葉選手が、女子 100m で見事な復活優勝を果たしま



した。困難を乗り越えた経験をこれからの競技生活に活かし、世界の舞台でも活躍して欲しいと願っています。また、インターハイでは残念ながら優勝を逃しましたが U20 日本選手権 ^{3位} の大石亮太選手、橋本詩音選手にも U20 世界選手権ベルー・リマ) では自己記録更新を目指して伸び伸びと世界の強豪に挑んで欲しいと思います。

中学生においては福井全中、小学生は日清カップと、静岡県代表選手として自己の目標に向かって胸を張って競技してくれることを願います。

国民体育大会が今年から国民スポーツ大会に名称を変えました。第一回佐賀国スポに向けて静岡県チームはベストを尽くします。強化委員会の強力なスタッフと、各選手のホームコーチが連絡を密にして全国の強豪たちと競い合っ来て来ます。静岡からの温かい応援をお願いします。



『バランス良く陸上競技を楽しんで欲しい』と願って始めた小学生の混成競技得点集計が、記録委員会の HP の最下欄に掲載されています。記録委員会関係者には多くのご負担をかけ心苦しいですが、今年から掲載を開始したこのカテゴリーから将来有望な選手たちが巣立ってくださることを希望してやみません。指導者の方々にはバランス良く成長する小学生への後押しをこれからもお願いいたします。

来年の東京世界選手権に一人でも多くの本県選手が出場できるように、また四年後のロスアンゼルスやその次の五輪を目標とするアスリートが沢山育つように私たちは応援していきます。

『やっぱり陸上は楽しい』と思えるよう静岡陸協は努力して参ります。ご協力をお願いいたします。

静岡国際陸上2024

日本グランプリシリーズ第5戦、第39回静岡国際陸上競技大会が5月3日、エコパスタジアムで行われた。

注目の男子200m。今シーズン好調をキープする飯塚翔太選手。さらに連覇を狙う鶴沢飛羽選手などハイレベルな顔触れとなった。決勝では、鶴沢選手がスタートから飛び出し20秒26で優勝。飯塚選手も粘りを見せるが2着に終わり、地元で優勝とはならなかった。

飯塚翔太選手コメント

「全体的に動きが緩かった。前半から全然スピードが上がらなくても優勝がありました。でも、この試合来るたびに静岡の人たちの熱意と陸上のやる気を感じます！」

800メートルの女子は久保凜選手（大阪・東大阪大敬愛高）が2分3秒57のU18日本新記録、男子は落合晃選手（滋賀学園高）が1分46秒54の日本高校新記録を打ち立てた。



夕方からは、パリオリンピックの代表選考を兼ねた陸上10000メートルの日本選手権が行われ、女子は26歳の五島莉乃選手が、男子は23歳の葛西潤選手が、ともに自己ベストを更新して初優勝を果たした。

男子

1位 葛西潤（旭化成）27分17秒46、
2位 太田智樹（トヨタ自動車）27分20秒94、
3位 前田和摩（東農大）27分21秒52
U20日本新、日本人学生最高

女子

1位 五島莉乃（資生堂）30分53秒31、
2位 小海遥（第一生命グループ）31分10秒53、
3位 兼友良夏（三井住友海上）31分59秒29

葛西潤選手

「走り勝ててよかった。ラスト1000メートルから1200メートルぐらいからちよつとずつリズムを上げて逃げられればいいかなと思ったので、プランどおり走れた」

前田和摩選手

「タイムを気にすると動きが固くなってしまったので、ひたすら先頭についていきました。粘って、粘って、最後まで押していくことができました」



二〇二四年度 静岡陸上競技協会顕彰受賞者

1、特別功労表彰

なし

2、永年勤続功労者表彰

なし

3、功労者表彰

清野 裕章	東部
渡邊 直明	東部
曾根 正明	中部
清 尊徳	中部
坂田 雄章	西部
神谷 晃尚	西部

4、日本記録樹立者表彰

山崎 有紀 (スズキ)	五種競技 sh	4078点
-------------	---------	-------

5、優秀選手賞

山崎 有紀	スズキ	日本選手権
齊藤 真理菜	スズキ	七種競技 5810点
日本選手権	やり投げ	61m14
アジア選手権	やり投げ	61m67
村瀬 くに	九州共立大	U20日本選手権 砲丸投げ 14m60
間木 悠喜	浜松工	U16競技会 1500m 16秒00
若竹 瞬	静岡中央	全国高校定通制 1000m 10秒93
小森 琥珀	精華清水	全国高校定通制 4000m 49秒43
三木 穂高	静岡中央	

全国高校定通制 砲丸投 12m39

静岡県チーム 全国高校定通制

4×1000mリレー 42秒74 大会新

三輪 和信 (鹿島浜松)

若竹 瞬 (静岡中央)

大崎 奨真 (静岡中央)

小森 琥珀 (精華清水)

静岡県チーム 全国高校定通制

4×4000mリレー 3分27秒95

遠藤 稟大 (精華清水)

三輪 和信 (鹿島浜松)

若竹 瞬 (静岡中央)

小森 琥珀 (精華清水)

吉田 明仁 三島中郷西中

全日本中学 4000m 48秒74

日本陸上競技連盟2023年度

中学・高校優秀指導者章

(高校)

西島 信弘 (富士宮西高)

(中学)

木下 佳彦 (三島北中)

日本陸上競技連盟2023年度

中学生・高校生優秀選手章

(高校生)

辻本 桜寿 (浜松開誠館高)

(中学生)

吉田 明仁 (三島中郷西中)

静岡国際アスリートインタビュー

久保 凜選手

Q レース中はなにを考えていましたか

A 大きな大会に参加するときはいつも同じですが、周囲のことを気にせず、自分に集中して、自分のレースをすることだけを考えていました。一大会に向けてどんな準備をしましたか

Q 本番で自分の力を出せるように、しっかりと調整してきました。レースでよい結果を出すことを意識して練習した成果ができました。

Q 今後の目標は

A もちろん高校新記録です！このような大きな大会に積極的に出場して記録を出したいです。夏のIH800で優勝したいです。

落合 晃選手

Q 今日のレースはどうでしたか

A 自己ベストで高校記録更新！うれいです！日本のトップ選手たちと走れてうれしかったです。

Q レース中はどんなことを考えていますか

A あせらずに、他の選手の背中を追いかけようと思いました。積極的について、「あわよくば自

己ベスト！」と思っていました。

Q 今後の目標は

A 今日のレースで自信をつけることができました。今後はオリンピックの日本代表になるような選手になりたいです。



チーム紹介

裾野陸上クラブ (S.T.F.C)

監督 小林 進

「チームの立ち上げ」

平成24年に、中学校の陸上部の活動が時間的な制限から十分に行えない、また、中学校に陸上部がなく陸上競技が行えないなどの理由から私と代表の志村重利氏とで地域のクラブとして活動を始めました。活動場所は、裾野市陸上競技場で、



練習日は水曜日の18時〜20時と土曜日の17時〜19時半（冬期は、日曜日の9時〜11時半）の週2回、練習を行っています。メンバーは裾野市近隣の中学生です。今年から一般選手も加わりました。人数は、短距離8名、長距離12名の20人です。コーチ陣は短距離3名、長距離2名で行っています。最近では当クラブのOBも指導に参加してくれています。自己記録の更新、そして、各種大会での入賞を目指して日々、練習に励んでいます。また、令和5年度から中学校の部活動の地域移行の受け皿として市内中学校陸上部の合同練習会を実施しています。本年度は月2回の合同練習会を実施しています。

「全中大会での優勝者一名・入賞者二名」

クラブ創立12年目になりませんが、大会で活躍する選手も何人か出てきましたので紹介します。まずは、昨年の第50回全中愛媛大会の四〇〇mで静岡県中学記録を32年ぶりに

更新し優勝した吉田明仁選手です。吉田君は、中一の冬に当クラブに入ってきました。大変練習熱心でクラブの練習がない日には、自校に陸上部がないため近隣の中学校陸上部の練習に参加したり自主練習をしたりして力をつけてきました。自主練習で三五〇m走を数本やるなどの持久的な練習をしていましたので、クラブの練習では、SDなどのスピード練習を中心に、練習の最後は三〇〇m走を入れる練習が中心でした。その成果もあり中三ではスピードがつき中体連県大会で二〇〇mを21秒台まで高めることができました。これが彼の強みとなり全国優勝という結果になりました。現在日大三島高校の一年生となり四〇〇mでは中学時代の記録をさらに更新し、東海大会まで進めています。高校でも高みを目指して取り組んでいます。今後の活躍が期待されます。次に、第41回全中香川大会で、四〇〇mで4位に入賞した池内祐貴選手です。彼も全国上位入賞を目指していましたが、最後の直線勝負で負けてしまいました。このレースの駆け引きが今回の吉田君のレースに生かされていると思います。続いて小澤大樹選手です。彼は深良中学校時代に陸上部がなく当クラブで練習を積み重ね第



42回全中北海道大会では三〇〇mで6位に入賞しました。葦山高校、明治大学へ進み、現在、富士通陸上競技部で活躍しています。最後に飯塚魁晟選手です。彼は当クラブでは、ハードルで東海大会に出場するレベルの選手でしたが、日大三島高校に進学し一〇〇mHでインターハイ2位なるまで記録を伸ばしました。その他にも全中大会に出場した選手は、御宿ありす選手、篠原一希選手、大庭光輝選手、石井稜大選手、大沼光琉選手がおります。今後も当クラブの選手及び卒業生の活躍が期待されます。

〔編集〕

静岡陸協広報委員会・静岡陸協事務局
水谷陽介（編集・文責）
橋本美智夫（編集委員）

（印刷・大日三協林）